



大庄中は平成27年度に創立10周年、尼崎市は平成28年に市制100周年を迎えます

## 全国学力・学習状況調査結果 その2

### 無解答が多すぎる大庄中

第19号でもふれたように、今年の問題は、4つの調査を合わせた92問中およそ半分の48問が選択肢で、ほとんどが4択でしたから、選択肢の問題で全て①を塗りつぶしても、確率的に12問くらいは正解になるはずですが、にもかかわらず、大庄中では、例年と同じく「無解答」の数が全国平均を大きく上回っていました。

1時間目に行われた国語A、大庄中は最初の3問目までは（3問とも選択肢）、無解答は0人です。3問目までの無解答率の全国平均は0.2%ですから、全国より素晴らしいスタートです。ところが、4問目の「主人公の心情を表した文の一部を5字以内で書き換える問題」になりますと、全国平均は9.2%の無解答なのに、大庄中では14.3%も無解答が出ます。5問目の選択肢も大庄中は無解答0ですが、6問目以降は、国語Bも数学A・Bも含めたすべての問題で大庄中の無解答率が全国平均を上回るようになります。大庄中で、無解答率の高かった問題を紹介しておきましょう。

国語Aでは、「招待」という漢字を書く問題の無解答が14.3%（正解が47.6%）、「英気を養う」の意味の問題文に示されている言葉を使って書く問題の無解答が16.7%（正解が56%）で、無解答が目立ちました。また、無解答率は低かったのですが、円の「半径」という漢字を書く問題の正答率の低さ（40.5%）には、ビックリでした。数学の時間でいつも使っているはずですから…

国語Bでは、問題文にある資料を読み、その内容を使いながら「切手を水に浸すとききれいにはがれる理由を20字以上50字以内で書きなさい」という問題の無解答が21.4%（正解が20.2%）でした。

数学Aでは、「プールの水の深さは120cm以下である」を不等式で表す問題の無解答が21.4%（正解が25%）、一次方程式を解く問題の無解答が21.4%（正解が40.5%）、連立二元一次方程式を解く問題の無解答が19%（正解が58%）、関数の問題の無解答が25%（正解が34.5%）、比例・反比例の問題の無解答が29%（正解が30%）、度数分布表の問題の無解答が21.4%（正解が33.3%）などで、無解答が目立ちました。

数学Bでは、空間図形の問題で無解答が29%（正解が8.2%）、一次関数で2つの数量の関係を説明する問題の無解答が50%（正解が16%）、二等辺三角形の証明問題の無解答が50%（正解が3.5%）、二等辺三角形で1つの角の大きさを求める問題の無解答が39.5%（正解が8%）、一次関数のグラフから数値を答える問題の無解答が21%（正解が48%）、問題解決の方法を説明する問題の無解答が29%（正解が7%）などで、無解答が目立ちました。

1年・2年の数学の内容が理解できていない人が、本校は多いということが言えるでしょう。

### 基礎的なことを復習する必要がある人がいます

無解答率は低くないのですが、基礎的な問題で正答率の低かった問題も紹介しておきます。

国語Aでは、基礎的な漢字の書き取りや読みができていない人がいました。例えば、「稚魚」の読みの正答率は71%、「音響」の読みの正答率が78%でした。

数学Aでは、第1問の $3/4 \div 5/6$ の計算（分数の割り算）…これは小学校の学習内容ですが、本校の正答率は80%。無解答が5%でした。15%の人が計算間違いをしています。

第2問の $2 \times (-5^2)$ の計算は、正答率が60%、無解答が5%、計算間違いが35%でした。これは、中1の初めの計算です。

第3問の-7の絶対値を書く問題の答えは、7と書くだけです。この問題でも正答率は88%で、無解答が5%でした。これも中1の学習です。

基礎的な、中1までの計算ができない（身につけていない）人がかなりいることが、この調査で明らかになりました。これでは、高校入試問題の最初の計算問題も間違えてしまいますし、そもそも数学の授業がわかるはずありません。高校に進学しても数学の授業はありますので、中学生の間に最低限の基礎的なことはできるようにしておく必要があるのではないのでしょうか。

### ビデオ・ゲーム・携帯・スマホなどと平均正答率の関係

生徒質問紙のデータと平均正答率の相関関係を分析した結果を一部お知らせします。下の表は、本校の81名の受験者を今回の4つの調査（国語A、国語B、数学A、数学B）で、平均正答率が全国平均を上回った調査の数が4つか3つの人（26人）

→Iグループ、2つか1つの人（24人）→IIグループ、0の人（31人）→IIIグループの3グループに分け、それぞれのグループの家庭でのビデオやゲームやメールなどの時間を表にしたものです。

3つの表から共通してわかるのは、平均正答率が低いグループほどビデオやゲームやメール・インターネットなどの時間が長いということです。

また、表にははきませんで

したが、IIグループとIIIグループには、ビデオ、ゲーム、メール・インターネットの3つとも3～4時間か4時間以上という人が6人、3つのうち2つが3～4時間か4時間以上という人が16人もいました。これでは、家庭学習の時間が少なくなるのも当然でしょう。家庭での時間の使い方を考える必要がある人も、かなりいるように思いました。

（文責：校長 福井 隆夫）

全国平均を上回った調査数	0	1時間まで	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
(I)3と4	0%	12%	19%	38%	15%	15%
(II)1と2	4%	13%	8%	29%	21%	25%
(III)0	0%	6%	13%	23%	19%	39%

全国平均を上回った調査数	0	1時間まで	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
(I)3と4	19%	31%	19%	12%	12%	8%
(II)1と2	8%	38%	8%	17%	13%	17%
(III)0	10%	3%	26%	23%	13%	26%

全国平均を上回った調査数	持っていない	30分まで	1時間まで	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
(I)3と4	19%	12%	19%	15%	12%	4%	19%
(II)1と2	4%	13%	8%	21%	13%	25%	17%
(III)0	13%	6%	3%	23%	16%	10%	29%